

水の 話

FujiClean NEWS

2022
Spring

no.195

[特集]

歴史と風土が息づく、
関東の水郷三都

百万都市・江戸を支えた北総の歴史と水辺環境

歴史と風土が息づく、 関東の水郷三都

百万都市・江戸を支えた北総の歴史と水辺環境

東京から車で1時間ほどの距離に位置する佐原、潮来、鹿嶋は、千葉県と茨城県にまたがる水郷三都と呼ばれる地域です。かつて大都市・江戸に物資を運ぶ利根川水運の中継地として栄え、多くの商いや文化が交差した場所として、現在でもその情緒が色濃く残っています。水とともに暮らしてきた豊かな歴史、文化、風景など、関東に残る水郷のまちの昔と今を伝えます。



冬になると多くの白鳥が飛来する、北浦湖畔にある白鳥の里

利根川水運がもたらした繁栄と文化が交差する、水郷のまち。

江戸の繁栄を支える大改修工事・利根川東遷

新潟県と群馬県の県境にあり大水上山に水源を発する利根川は、1都5県（東京、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉）にまたぐ日本最大の流域面積を持つ一級河川です。古くは相模国の足柄山・箱根山以東を坂東と呼んでいることから関東随一の河川という意味で「坂東太郎」の異名を持ち、首都圏の水源として重要な役割を果たしてきました。

現在の利根川は銚子に流れ出ていますが、江戸時代初期には江戸川下流域を流れて東京湾に注いでおり、度重なる洪水でこの地域の人々を苦しめていました。しかし徳川家康が江戸に入府すると、江戸を洪水から守り、食料確保のための新田開発を目的に利根川と荒川を切り離し、利根川の流路を太平洋沿岸の銚子沖へと東側に大きく迂回させる大改修工事を行いました。これを「利根川東遷」と呼び、人工的に流路を変えた第一歩といわれています。

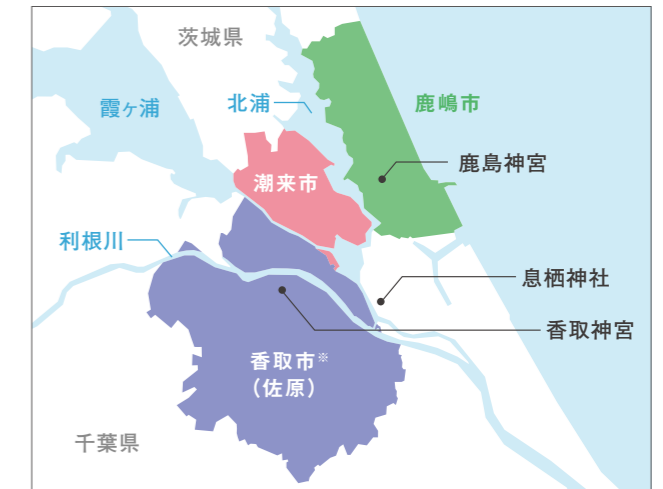
江戸の風情と水の恵みにふれる水郷三都

当時江戸には、江戸の町づくりのために多くの職人や商人、大名が集まり、大量の食料や生活物資が求められていました。このために必要だったのが、大量輸送が可能な船です。海運は西回り航路が物流の柱となっていました。天候に左右されるだけでなく日数も費用もかかるため、江戸により近い関東から物資を集められる内陸水運の整備が進められたのです。利根川東遷により、日本一の大運河利根川は物流の中心となり、江戸と結ばれた関東の地方では物資や

情報、人の交流が盛んとなり、河川には多くの河岸がつくられ繁栄を極めていきました。

その中でも、利根川下流域に位置する千葉県の香取市佐原、茨城県の潮来市、鹿嶋市は、東北地方の年貢米などを江戸に運ぶ利根川水運の中継地として栄えた、つながりの深い地域です。また当時は、鹿島神宮、香取神宮、息栖神社の東国三社を参詣するのが流行していたことから、観光地としても人気を集めていました。このように、古くから歴史的伝統文化など深いつながりのある3つのエリアを「水郷三都」と称し、今もなお利根川水運の歴史と文化を感じられる地として注目を集めています。

● 水郷三都MAP



※佐原は、かつての佐原町、佐原市の地域で、2006(平成18)年に小見川町、山田町、栗源町と合併し香取市が発足しました



写真提供 鹿島神宮



2600年以上の歴史を持つ鹿島神宮(左)と香取神宮(右)は、古くから大和朝廷の前線基地として重要視されてきました。『延喜式神名帳』によると、平安時代に「神宮」の称号で呼ばれていたのは伊勢神宮とこの二社だけだったことから、由緒ある神社として信仰を集めてきました

江戸^{まさ}優りの文化が花開いた・佐原

茨城県と接する佐原は、江戸時代中期から昭和初期にかけて利根川の水運で栄えた水郷の商都です。その賑わいは「お江戸見たけりゃ佐原へござれ、佐原本町江戸優り」と俗謡が唄われたほど。利根川の支流である小野川沿いには商家が軒を連ね、店先には船から荷を積み下ろすための「だし」がつけられました。東北からの年貢米の積み替えだけでなく、それらを使った酒、醤油、味噌などの醸造業も発達。それらを江戸に運ぶと、復路には江戸で流行している呉服やかんざし、草履、下駄などを仕入れて佐原に持ち帰り、香取神宮へつながる参道で売りました。最先端の物や情報が集まったことで、文化や学問にも大きな影響を与え、天文学・地図製作の伊能忠敬をはじめ、多くの文化人も輩出しています。

佐原の隆盛は、物流が自動車輸送に変わる1960年代まで続きましたが、輸送手段や物品販売の形態が変わると次第に衰退していきました。しかし、今もなお小野川沿い周辺に蔵造りの町屋や土蔵、洋風建築などの伝統的な建造物を残し、佐原の「江戸優り」の繁栄を感じさせる情緒漂う町並みを形成しています。これらの町並みは、官民一体による「まちづくり型観光地づくり」の推進によって実現されたもので、利根川水運の繁栄を偲ぶことができる唯一の貴重な文化・景観として、1996(平成8)年に国の重要伝統的建造物群保護地区にも選ばれています。

水運で繁栄した歓楽郷・潮来

霞ヶ浦や北浦に面している茨城県潮来市は、古くから漁業がたいへん盛んな地域で、日本有数の経済圏として栄えていました。1185(文治元)年に源頼朝が創建した長勝寺に残されている銅鐘には「客船夜泊常陸蘇城^{*}」と記されており、当時の繁栄を物語っています。江戸時代に入り利根川東遷が行われると、佐原と同じく霞ヶ浦・利根川水運の中継地として東北諸藩から江戸に運送される米・海産物・材木などが運ばれるようになり、最盛期には年間400隻もの荷船が出入りしていました。また利根川の水運は旅行者にも利用され、水郷の風景を楽しむ人や多くの参拝者が訪れ、浜町に遊廓ができると、吉原、大洗と並ぶ「関東三大遊廓」と称される歓楽郷としてさらに賑わいをみせました。

しかし1700年代になり、大雨や噴火、洪水などによって川に土砂が流入し船が入れなくなると、中継港としての役割は佐原へと移っていきました。しかし東国三社への参拝客は絶えることなく、潮来の産業は水運から観光へと移り変わります。若い女性が観光客を相手に、ろ舟を操る「娘船頭さん」は、1955(昭和30)年に美空ひばり主演映画の撮影により話題を集めました。ろ舟とは櫓を使う手漕ぎ舟のことで、三方を水に囲まれたこの地方の人々にとって農作業はもとより生活に欠かすことの出来ない重要な役割を果たしていました。嫁入りの際に花嫁や嫁入り道具をろ舟で運ぶ「嫁入り

舟」は、現在も潮来市のシンボルとなっているあやめまつりで催行されています。

※「夜になると客や物に乗せた船が泊まる潮来の港の賑わいは中国の蘇州のようだ」の意

海と湖に囲まれた信仰のまち・鹿嶋

太平洋と霞ヶ浦・北浦に挟まれ水に恵まれた茨城県鹿嶋市は、東国随一の古社である鹿島神宮が鎮座する歴史と文化を伝えるまちです。佐原・潮来とならび、江戸時代から明治時代にかけて湖や河川が交通路として頻りに利用されたことで河岸・渡船場は隆盛を極めました。また鹿嶋市角折の海岸は、利根川・酒沼川・那珂川の河口のほぼ中央に位置するため、淡水の影響が最も少なく濃い海水が得られたため、製塩に大変適していました。そのため鹿島灘でとれた貴重な塩を、東国三社詣(東国三社参り)の参拝者、花街で賑わう潮来へ行く人とともに船で運んでいたそうです。

鹿島神宮は水との関わりも深く、北浦と鰯川を分ける神宮橋のたもとに立つ西の一之鳥居は、鹿島神宮参拝の玄関口であり神宮の象徴ともいえます。これは、鹿島神宮の御祭神である武甕槌大神^{たけみかづちのおおかみ}が出雲へ行ったのが船であったため湖上に鳥居があるそうで、現在の鳥居は2013(平成25)年6月に竣工したもので、川底からの高さ18.5メートル、幅22.5メートルと水上の鳥居としては日本最大です。歌川廣重の『六十余州名所図會』にも描かれ、水上鳥居の壮大で

幻想的な景観は、昔から多くの人を魅了してきました。また12年に一度行われる「御船祭」は、鹿島神宮から出御した神輿が鰯川の大船津で船に乗せられて進んでいく、国内最古最大の規模と華麗さを誇る祭典として、今もなお受け継がれています。

水郷三都の新たな魅力の創出に向けて

利根川水運や東国三社への参拝客などにより繁栄を遂げてきた水郷三都は、長い歴史の中で強い繋がりを育んできました。また佐原では「歴史的文化を後世に残そう」という働きかけが起こり、懐かしい町並みが復元されたことを契機に水郷の魅力が再認識されてきました。そうした状況を受け、2005(平成17)年に三市が連携する水郷三都観光推進協議会が発足し、広く水郷三都を知ってもらう取り組みが始まりました。国内事業としてウェブサイトやパンフレットの作成、モニターツアーなどを実施したほか、海外にも目を向けたPR活動をスタート。国土交通省のビジッジャパン事業を中心としたインバウンド向けのパンフレット作成や、Wi-Fiの整備、旅行会社のエージェンツ招請など行い少しずつ東・東南アジアからの観光客も増加しました。現在はコロナ禍の影響もあり、マイクロツーリズムを中心として、レトロで情緒あふれる街並みや東国三社参りをPRする企画を用意し、水郷三都の魅力の創出と発信に取り組んでいます。



1. 重要伝統的建造物群保存地区にある三菱館は1991(平成3)年に千葉県有形文化財に指定され、現在は観光施設としても活用されています
 2. 佐原の情緒あふれる町並み。伊能忠敬が17～49歳までをすごした旧宅の正面の「だし」は、現在、観光船乗り場になっています
 3. 昔、川をまたいで農業用水を通すための樋の上に板を渡してつくった「樋橋」。両側からあふれた水が川に落ちる音から「じゃあじゃあ橋」の愛称で親しまれています
 4. 水郷潮来あやめ園は、5・6月にかけて花しょうぶが一面咲きほこります
 5. あやめまつり期間中の水・土・日曜日は嫁入り舟が運航されます
 6. 鰯川の岸の眼前に建つ鹿島神宮 西の一之鳥居
 7. 御船祭で、大船津より香取市へ進む、竜頭で飾り付けられた御座船と供奉船

水郷のまちを支えた関東の水資源、霞ヶ浦の自然再生。

琵琶湖に次ぐ国内第2位の大湖・霞ヶ浦

茨城県の南東に位置する霞ヶ浦は、利根川と同じく水郷三都をはじめとする水郷地域に大きな影響を与えてきた大切な水資源です。最も大きな面積を持つ西浦をはじめ、北浦、鰐川、常陸利根川、横利根川を含んだ総称で、その面積は国内では琵琶湖に次ぐ第2位を誇り、流域面積は2,157平方キロメートルと茨城県全体の35%を占めるなど、この地域の生活や産業の基盤をなしています。

元々霞ヶ浦は、銚子方面から海が内陸部に深く入り込む大きな入江の一部でした。江戸時代の利根川東遷事業により、霞ヶ浦南東部に運ばれる土砂が増えたことで海水との連絡が悪くなり、現在のような淡水化した湖となりました。霞ヶ浦周辺は有数の穀倉地帯であるほか、1985(昭和60)年に約85万人だった流域内人口は、2015(平成27)年までの30年間で96万人まで増加しています。

水質を悪化させた外部要因と内部要因

かつての霞ヶ浦は、たいへん水がきれいでも、湖水浴場が10箇所以上も存在していました。しかし、1960年代に高度経済成長期を迎えると、流域での急激な人口増加による工場や家庭からの大量の排水によって水質が悪化。アオコが大量に発生し悪臭を放つようになると、衛生上の観点から1973(昭和48)年の夏を最後にすべての湖水浴場が閉鎖しました。

汚濁化のもう一つの要因に、霞ヶ浦特有の地形や環境が

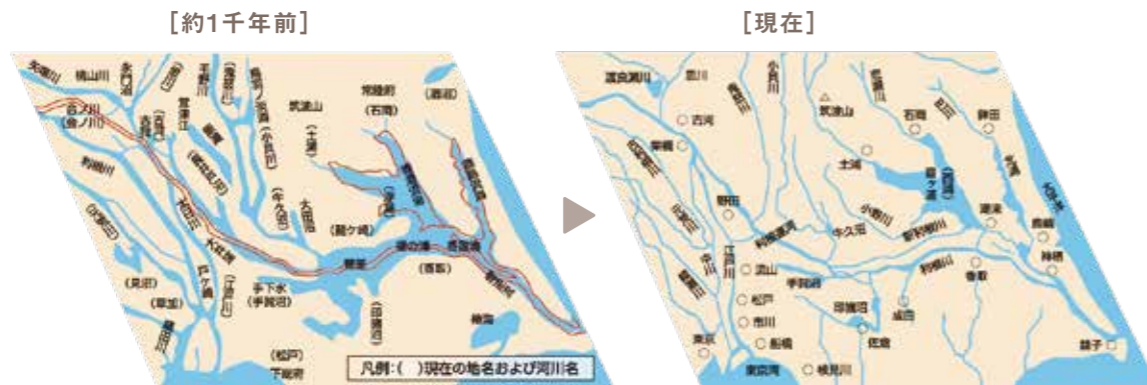
あります。霞ヶ浦は流域面積が広いうえに平均水深が4メートルと浅く、その形状は皿状で富栄養化が進行しやすい環境です。植物プランクトンが異常繁殖して水質が汚濁するとともに、その死骸が堆積・蓄積した底泥から窒素・りんが湖中に溶け出します。さらに霞ヶ浦には56本の河川が流入していますが、出口は常陸利根川の1本だけ。霞ヶ浦の湖水交換日数は約200日で、一度汚濁が進むとそれを回復するには大変な時間を要するため、外から入ってくる外部要因と、湖の中で発生する内部要因の両方を取り除いていく必要があるのです。

霞ヶ浦の多様な環境改善活動

こうした状況を受けて、茨城県や霞ヶ浦河川事務所では、さまざまな環境改善の取り組みを行なっています。例えば、西浦においては、これまで流域下水道の整備や底泥浚渫が実施されました。近年は、西浦と北浦のいくつかの流入河川の河口付近にウエッドランド(湖内湖浄化施設)を設置しています。これは河川から入ってくる水を一時的に貯め、沈殿ピットで水質悪化の原因となる物質を沈殿回収することや湖内への拡散を防止することで水質の悪化を抑制する施設です。また夏季に大量に発生したアオコが周辺環境や景観を悪化させるのを防ぐため、湖面に浮遊するアオコをアオコ採取船や回収機で採取しています。土浦港では、アオコの大量発生が予想される場合には侵入防止フェンスを設置し、湾内への流入を防止しています。

● 霞ヶ浦流域の変遷

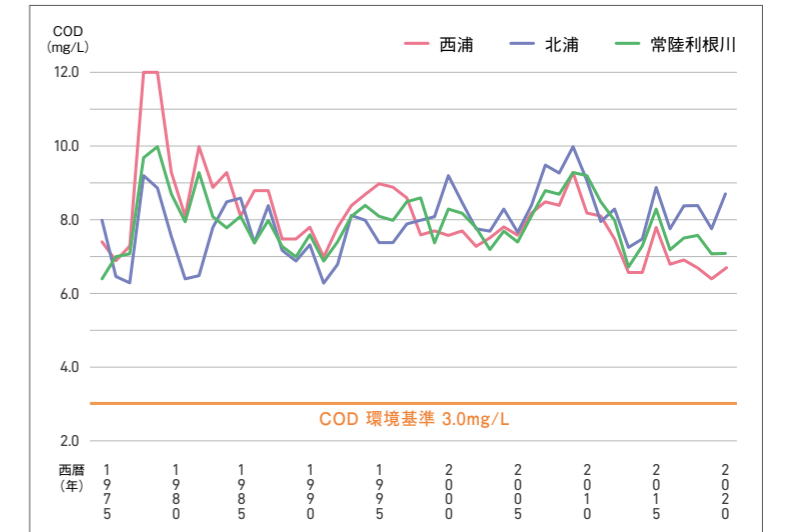
※ 赤線は現在の水際線



1. 1970(昭和45)年ごろの湖水浴で賑わう霞ヶ浦
2. 2011(平成23)年に北浦で発生したアオコ
3. 淡水湖にかかる橋としては琵琶湖大橋に次いで国内第2位の長さを誇る北浦大橋
4. 既存植生を保存しながら、湖と連続性を持つ水辺空間の再生を目指す自然再生事業
5. 霞ヶ浦の水辺を再生し、環境学習の場として活用しています



● CODの経年変化(2021年4月時点)



また近年の水質悪化や開拓事業、湖岸堤の整備、波浪などの要因によって湖岸植生帯が減少しているため、田村・沖宿・戸崎地区では既存植生を保存しながら水辺空間を再生する自然再生事業を展開。多様な生物の生息環境を再生させることで、環境学習の場としても活用されています。

「泳げる霞ヶ浦」「遊べる河川」を目指して

霞ヶ浦の水質は、1960年代の高度経済成長に合わせて悪化し、1970年代前半のCOD値は7mg/L台、1979年(昭和54)年には11mg/Lと高い数値を示してきました。その後、水質浄化対策を促進したことで、1991(平成3)年には6.8 mg/Lまで改善しましたが、その後はほぼ横ばい状態。2020(令和2)年の調査では西浦は6.7 mg/L、北浦では8.7 mg/Lの結果が出ており、いずれも環境基準を上回っています。かつてのように「泳げる霞ヶ浦」「遊べる河川」を実現するためには、流域全体で霞ヶ浦に流れ込むさまざまな負荷を削減することが不可欠であり、1986(昭和61)年度よりスタートした茨城県、千葉県、栃木県による「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画」の長期ビジョンでは、全水域の平

均値でCOD5mg/L台前半の水質実現を目指しています。また茨城県では、2008(平成20)年に「森林湖沼環境税」を導入し、森林整備や水質保全対策を推進。税収は高度処理浄化槽設置*への補助にも活用され、霞ヶ浦に流入する生活排水の負荷削減の一助になっています。

江戸時代の利根川東遷事業は、水運によって水郷地域に大きな繁栄をもたらせました。しかし一方で霞ヶ浦や流域の水環境を大きく変えるきっかけにもなっています。水郷と呼ばれるまちの魅力を見つめ直すことは、同時に水の大切さを再認識することにもつながっているのです。

※窒素・リンを同時除去するフジクリーンのCRXII型も補助の対象となっています。

[取材協力・写真提供・資料提供]

- 鹿嶋市 経済振興部 商工観光課
- 小野川と佐原の町並みを考える会
- 潮来市 観光商工課
- 国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所
- 鹿島神宮
- 香取神宮

[参考資料]

- 利根川 人と技術文化(北野 進・是永 定美 編/雄山閣出版株式会社 発行)
- 河岸に生きる人びと 利根川水運の社会史(川名 登 著者/株式会社平凡社 発行)



神秘的で、美しい。 東国三社の隠れた水風景・水物語

「東国三社」は、茨城県にある「鹿島神宮」と「息栖神社」、千葉県にある「香取神宮」の三社をまとめた呼び名です。江戸時代には、お伊勢参りのあとに三社を参拝する「東国三社詣」が大流行するなど古くから信仰を集めていました。いずれも国譲りの際に地上に遣われたとされる神様を祀っているため、現代でも決断や何かを始める際に足を運ぶ人が大勢います。また水郷と呼ばれる水の豊かな地域にあることから水との関わりも深く、境内やその周辺には、水にまつわる逸話が残る神秘的で美しいスポットが残されています。

Spot 1 御手洗池 [鹿島神宮]

鹿島神宮は神武天皇元年創建で、2600年以上の歴史を持つ関東最古の神社です。東京ドーム15個分ほどの境内の奥へ進むと「御手洗池」があります。御手洗池は1日に40万リットル以上の湧水がある御神水で、水底が見渡せるほどに澄んでいます。水深は1メートルほどで、昔は、参拝する前にここで禊をしていたといわれ、現在では年始めに200人もの人々が参加する大寒褌が行われています。



写真提供 / 鹿島神宮

Spot 2 忍潮井 [息栖神社]

境内にある二の鳥居から西へ150メートル、常陸利根川沿いにある一の鳥居の両脇にある二つの四角い井戸が「忍潮井」です。井戸の中に小さな鳥居が建てられ、水底を覗くと二つの瓶がうっすらと見えます。この二つの瓶は「男瓶」と「女瓶」と呼ばれ、1000年以上の間、清水を湧き出し続けてきたとされています。汽水の中に湧き出す非常に珍しいもので、日本三霊泉の一つに数えられています。



Spot 3 津宮鳥居河岸 [香取神宮]

香取神宮の参道正面にある朱色の鳥居は第二の鳥居で、少し離れた利根川に面して立つのが第一の鳥居です。鹿島神宮の西の一の鳥居は水の上にありましたが、香取神宮の鳥居は土手の上にあります。香取神宮の御祭神である経津主大神が海から上陸されたと伝えられる場所で、昔は第一の鳥居から香取神宮までの道が表参道とされていました。「式年神幸祭」では、ここから神輿をのせた御座船が利根川を廻ります。



NEWS

フジクリーンの合併浄化槽が、 サステナブル技術普及プラットフォーム 「STePP」に登録されました。



STePP Webサイト



このたび、フジクリーンの合併浄化槽がサステナブル技術普及プラットフォーム「STePP」に登録されました。STePPとは、国際連合工業開発機関（UNIDO）東京事務所が提供する、開発途上国・新興国の持続的な産業開発のために日本の優れた技術を紹介するプラットフォームです。その登録基準は、「開発途上国・新興国の産業開発に資する優れた技術」として、以下の5つの技術的基準および当該企業の事業姿勢等を基に判断されています。

- 開発途上国・新興国での適用可能性
- 競合技術に対する比較優位性
- UNIDOが担う産業開発の役割との整合性
- 当該技術を適用した場合の持続可能性への貢献
- 技術的成熟度

フジクリーン紹介ページ



STePPでは、フジクリーンの合併浄化槽とその技術が、環境関連技術として水環境の汚染対策や循環型社会の構築に貢献でき、さらに保健衛生関連技術として公衆衛生にも役立つ技術として紹介されています。これらが広く発信されることで、排水処理の優先度が高い開発途上国や新興国などにおいて、迅速かつ低コストでの排水インフラの整備や普及拡大が期待できます。また合併浄化槽からの排水は下水処理場からの排水と同等の水質のため、灌漑用水として利用できるなど、さらに世界の水環境に貢献できる可能性が広がります。

STePP
Webサイト



フジクリーン
紹介ページ



過去の技術移転事例(一部抜粋)

- フィリピン / 工場
2021年7月完工 大型浄化槽
 - ベトナムハロン湾Titop島 / 公衆トイレ
2020年1月完工 小型、中型浄化槽 他
- ※STePPでの採用事例ではありません



製品

オーストラリアの高度処理クラス水質基準を満たす 中型浄化槽『FujiClean ACE3000』が新発売!

フジクリーンオーストラリアでは、このたび高度処理クラスに対応する『FujiClean ACE3000』の発売をスタートしました。オーストラリアでは、2017(平成29)年に浄化槽の水質基準が改定され、5,000リットルの排水量まで認証取得が必要となりました。そこで日汚水処理量3,000リットルまで対応できるACE3000を開発し、高度処理クラスである「advanced secondary」を満たす性能で試験を合格しました。2021(令和3)年11月にクイーンズランド州で認証を取得して発売を開始し、現在はほかの州の認証取得も段階的に進めています。

すでに2020(令和2)年から発売を開始している新オーストラリア基準対応型の「FujiClean ACE1200」に対しては、従来機種と同様、高い評価を得ており、今回発売したACE3000も「advanced secondary」を満たす処理水質の良さにこだわった製品として期待を集めています。フジクリーンオーストラリアでは、ACE3000の発売によって、今後さらに中型クラスの市場へも本格的に乗り出していく予定です。



ACE3000イメージ

特長

- BOD10mg/L以下 SS10mg/L以下の高度処理クラスを満たす処理性能
- 配送や施工がしやすいコンパクト設計
- ランニングコストを抑えられる高効率性能

会員サービス

フジクリーン維持管理ネットワーク 新規会員募集中 [参加無料]

フジクリーンでは、製品の品質向上とより良いサービスの実現を目指して、維持管理会社様との情報伝達を密にする維持管理ネットワークを拡充しています。ご登録いただくと、講習会や情報交換会についてのご案内や維持管理に役立つ情報、新製品の詳細情報などを配信いたします。詳しくは、お近くの営業担当にお問い合わせいただくか、弊社Webサイトよりご登録ください。

維持管理ネットワーク Webサイト

<https://www.fujiclean.co.jp/about/maintenance/>



現場講習会の様子

メディア

日本企業を紹介するWebサイト『JapanMade.com』に、 GNT企業としてフジクリーンが紹介されました。

JAPANMADE事務局が運営するWebサイト『JapanMade.com』は、「古き良き、新しき良きジャパンをプロデュースする」という理念のもとに、100年企業、GI企業、GNT企業、J-Startup企業など、各分野において優れた日本企業を紹介しています。世界で活躍する日本企業の記事や動画などの多彩なコンテンツを発信することで、若者に日本企業の素晴らしさを伝え、希望を与えることを目指しています。

今回フジクリーンは、GNT100(グローバルニッチトップ100)に選定された企業として取り上げられました。世界市場のニッチな分野で活躍するフジクリーンの技術特徴や優位性、グローバルマーケットでの事業戦略などについて紹介されています。

フジクリーン紹介ページは
こちらから



フジクリーン紹介ページ

働き方改革紹介05

新型コロナウイルス対策によって変化した働き方 ペーパーレス化対応

「withコロナ時代」の働き方として、フジクリーンでもオンライン会議やテレワーク、時差出勤など、働き方の多様化が少しずつ進んできました。そのなかでリモートワークの支障となっていたのが、紙を中心とした業務です。コロナ禍以前より経費や社内申請等の業務は電子化していましたが、受発注業務のやりとりの主流はFAXでした。FAXで届いた受発注書は紙で出力されるため、コロナ禍でも事務所へ行かなければならない状況を生み出していました。そこで受信FAXをデータ化し、どこにいてもリアルタイムで情報を得ることができる環境を構築。現在では、ほとんどの事業所においてペーパーレスFAXの導入を実現。受信に加えて、送信も電子化し、業務のあり方を少しずつ変えてきました。

ペーパーレスFAXを導入した事業所では、業務の効率化以外にも、セキュリティの強化、紙・印刷コストや、保管スペースの削減といったメリットも出ています。今後は、電子帳簿保存法の改正による、求められる要件に沿った文書保存の観点からも電子化が必要です。段階を経て電子文書への移行を行い、ペーパーレス文化の定着を目指します。



もっ
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈愛知県名古屋市〉
水源の里を守ろう
木曽川流域
みん・みんの会



共同代表 河崎 典夫さん(左)
事務局長 近藤 進 さん(右)

木曽川の上下流交流・連携を図り、 感謝の気持ちを原動力に水源の里を守る。



水源の里・木祖村にある大豆畑は、遠く木曽駒ヶ岳を望むことができます



2020年に名古屋市科学館に
贈呈した知育おもちゃ



長野県、岐阜県、愛知県、三重県に住む人々は、生活水や農業・工業用水として、木曽川の水の恩恵を受けています。しかし、蛇口をひねれば水が出る便利な世の中において、水がどこから来ているのか無関心になっています。そこで、“森は水の源、水は命の源、川は命のつながり”をモットーに、上流の山間部で暮らしながら森を守り、「水」を支えている人々に感謝する会として、2008(平成20)年に「水源の里を守ろう木曽川流域みん・みんの会」が誕生しました。

みん・みんの会では、上流(山間部)と下流(都市部)の交流と連携を活性化させるために、さまざまな取り組みを展開。例えば、木曽川上流域の生産品であるミネラルウォーター、酒、漬物、味噌、甘酒、木工製品などを、会員はもちろん安全性に配慮した商品を取り扱う会員制宅配会社でも販売し、販売価格の2%を水源の里基金として積み立てています。その基金は、上流域の環境保全活動に使用され、その一環として2011(平成23)年から長野県木曽青峰高等学校

インテリア科の生徒たちに、地元の間伐材を使ったベンチや木製玩具の製作を依頼。作品は毎年名古屋市科学館などの施設に贈呈され、交流の証となっています。また、継続的に上流域へ足を運ぶ機会と場を設け、顔の見えるつながりをつくろうと、2011(平成23)年から長野県木祖村に約180坪の畑を借りて無農薬の大豆栽培をスタートさせました。上流で農業を体験することで、鳥獣被害や気候変動などを伴う生産の苦勞を肌で感じるとともに、普段自分が口に入っている物がどこで、誰が、どのように作ったものなのかを考えるきっかけにもなります。収穫した大豆で作った2年醸造の味噌「みなもと」は、上下流交流を広める大切なアイテムとなっています。

10年以上活動を続ける代表の河崎さんは、上流に足を運び、現地の人と交流することで、水源の里が“あの人の暮らしている町”という意味を持つといいます。これからも、“水源”を意識する人が増えるよう、上流・下流のつながりの機会を提供していきます。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

| | | | |
|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 札幌支店 (011)738-5075 | 茨城営業所 (029)839-2271 | 岐阜営業所 (058)274-1011 | 佐賀営業所 (0952)31-9151 |
| 東北支店 (022)212-3339 | 宇都宮営業所 (028)625-4650 | 静岡営業所 (054)286-4145 | 熊本営業所 (096)388-3571 |
| 東京支店 (03)3288-4511 | 群馬営業所 (027)327-5611 | 四日市営業所 (059)350-0788 | 大分営業所 (097)558-5135 |
| 名古屋支店 (052)733-0250 | 埼玉営業所 (048)660-5050 | 和歌山営業所 (073)422-3634 | 宮崎営業所 (0985)32-3064 |
| 大阪支店 (06)6396-6166 | 千葉営業所 (043)206-5171 | 広島営業所 (082)843-3315 | 鹿児島営業所 (099)257-3501 |
| 福岡支店 (092)441-0222 | 新潟営業所 (025)271-8668 | 高松営業所 (087)869-8680 | 沖縄営業所 (098)862-9533 |
| 盛岡営業所 (019)604-2527 | 山梨営業所 (055)275-9300 | 松山営業所 (089)967-6123 | |
| 郡山営業所 (024)937-0800 | 松本営業所 (0263)27-2080 | 高知営業所 (088)803-1520 | |



発行 2022年4月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室